

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/11/26
所属学部・ 研究科・学府	法政経学部
所属学科・専攻	法政経学科経済学コース

1. 留学先について

留学先大学名	Universitas Gadjah Mada										
留学先所属学部等	Fakultas Ekonomika dan Bisnis										
留学期間	出発日	2019/8/5	入学日	2019/8/6	修了日	不明	帰国日	2020/3/27			
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	その他()								
	通学時間	15分～20分					On campus				
	通学方法	徒歩									
	居室スペース	<input type="checkbox"/> 個室	(1)	<input type="checkbox"/> 人部屋	その他()						
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	その他()				
食事	自炊	%	学食	<input checked="" type="checkbox"/>	%	外食	<input checked="" type="checkbox"/>	%	その他	%	()
保険	海外旅行保険(名称)	不明									
	派遣先大学指定の保険(名称)	特になし						<input type="checkbox"/> 強制加入			
	その他										
渡航ルート	ex.) 成田⇔シカゴ(飛行機)⇔ウィスコンシン(電車)										
	成田 ⇔		ジャカルタ(飛行機)			⇔ ジョグジャカルタ(飛行機)					

2. 留学にかかった費用について

総費用	約70～80万 円								
出どころ									
自費	<input type="checkbox"/>	貯金	約10～20万 円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/>	両親	20万 円	<input checked="" type="checkbox"/>	家族・親戚	20万 円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/>	JASSO	円	<input type="checkbox"/>	その他名称(千葉大学)		<input type="checkbox"/>	20万 円	
その他	<input type="checkbox"/>	その他()						円	

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	円	その他()	円
留学中	海外送金	キャッシング	✓	その他(SMBCプレスティアによるATMサービス)

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	現金
住居にかかった費用	現金
その他	クレジットカード

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			約180000	円
海外旅行保険			?	円
OSSMA			約20000	円
査証・在留許可証			約20000	円
住居	ルピア	24,000,000	約200000	円
食費	ルピア	16,000,000	約120000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			0	円
水道・光熱費	ルピア	4,000,000	約30000	円
その他 (旅行費)	ルピア	10,000,000	約80000	円
その他 (使途不明)	ルピア	10,000,000	約80000	円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
1 International Economics	正規	3		有	無
2 International Business	正規	3		有	無
3 Development Economics	正規	3		有	無
4 Indonesian Values and Ideologies	正規	3		有	無
5 International Taxation	正規	3		有	無
6 E-Marketing	聴講			有	無
7				有	無
8				有	無
9				有	無
10				有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

Sintesisという名の在学生用のページからのアクセスと登録、各期に開講される授業は事前にメールなどにより学生に掲示される

3-2. 授業内容、方法に関して

基本的に日本の学部の専門科目よりも少人数で開講されている。上学年のクラスに行くにつれ授業方法が生徒のプレゼンを軸としたものに変化した

3-3. 語学力について

在学生のInternational University Program(IUP)に通う者たちは、いずれも語学能力がIELTS換算で平均6.5以上であった

3-4. 図書館など学内施設について

図書館の教科書を用いての学生の勉強がほとんどであるために利用は必須。利用時は学生カードが必須。食堂は各学部ごとにそれぞれ設置されており、品物や料金もまちまち。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

帰国までに数回引っ越した。最初は大学のパートナーに仲介してもらったが、数か月後にはすでに自分で契約ができるようになった。基本的に日本の物件選びと同じように行えるが、宗教や性別などにより入れないアパートがあるので要確認。

4-2. 食生活について

自室内にキッチンがなかったため3食外食にした。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

自分のアパートにはWifiが完備されていたが、速度は遅いため、チャージ式のSimを使用することが多かった。また、それらのSimを利用する際は、都市をまたいでの使用ができないために注意が必要である。

4-4. 服装について

上半身はkemejaという正装か襟付きのシャツを着用すること、下半身は長い丈のズボンにサンダル以外の靴を着用することが義務づけられている。

4-5. 健康管理について

毎日の学校までの行き来とたまにジムに通うことで運動はしっかりとしていた。毎日の睡眠の習慣もきちんと規則正しくしていた。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

特になし

4-7. 課外活動について

語学学校に滞在中は通った。インドネシア語を未習得のまま渡航したので、急務であった。滞在期間中に合計で80時間通い一通りのコミュニケーションが取れるようになった。現在でもオンラインにて学習を継続している。そのほかに休暇期間中を利用して国際交流基金ジャカルタ支部にて、インターンシップ生として3週間就労経験を積んだ。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

地域のバドミントンクラブに通い、週一で活動をしていた。仲良くなった友人たちとその外でも交流を続けた。

4-9. 日本から持参してよかったもの

特にはないが、日本の味はあまり手に入らないので保存がきく食べ物を持っていくとよいかも。あと、歯ブラシのサイズが現地のほうが大きいので、日本人向けの物を使用したい方は日本から持っていくのを勧めする。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

ヘアドライヤー。全く使い物にならなかった。電圧が強すぎてすぐにブレーカーが落ちてしまったため、到着後即座に捨てた。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

日本で人とかかわる上でのマナーとほぼほぼ同じである。近い中にも礼儀はあるし、出会ったら明るく挨拶をしてコミュニケーションをとることで対人関係はうまくいく。ただ、宗教的な特性として、イスラム教の礼拝の時間を考えて行動することや、宗教によってNGなものが異なるので注意が必要。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

- ・カリムンジャワ島(旅行)2019年9月(4日間)約3万円
- ・西部ジャワ(旅行)複数回
- ・スマトラ島(結婚式参列)3日間 約1万円
- ・カリマンタン島(旅行)2020年1月(3日間)約2万円

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

パドミントンやフットサルなどのスポーツ、地元のBarに行き友達と交遊、

5. その他

5-1. 留学先大学について

ガジャマダ大学はジョグジャカルタ特別州にキャンパスを構える国内トップクラスの大学である。キャンパスを中心にその町が形成されているような作りになっている。日本人留学生としてガジャマダ大学に通う方法は主に2つ。インドネシア語を学ぶために非正規留学生として通うか、学部には交換留学生として通うかである。受け入れを希望する場合には、その学部の担当者に直接コンタクトをとるのが早い。留学生を担当する部署にメールにて確認するとかなり時間がかかるうえ手続きも厄介であるため、時間と正確な情報、計画性が常に求められる。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

もしこの大学の経済学部(他の学部でももちろん可)に交換留学を希望する場合には、その一助になれるので留学生課を通してぜひ私まで連絡をください。

5-3. 留学を終えて

コロナウイルスの国際的な蔓延により緊急帰国という運びになったため、前回までの交換留学生と比較するとその期間はやはり短かった留学生活でした。授業の大半は、オンライン授業に移行した際に授業継続が不可能になってしまったりと単位の取得もできなかった。しかし、そんな留学生活でさえ、わたしにとっては貴重な友人との出会いや、まだ見たことのないモノに触れる貴重な経験であった。そして、将来明確にインドネシアと日本のあいだで仕事をしたいと思うことができた。そのために就職活動と、語学や専門分野の研究を続けていきたい。